

令和7年度 第2回 吹田市地域自立支援協議会全体会議 ～ご報告～



日時

令和8年3月24日（木） 午後2時～午後4時30分



場所

メイシアター 小ホール

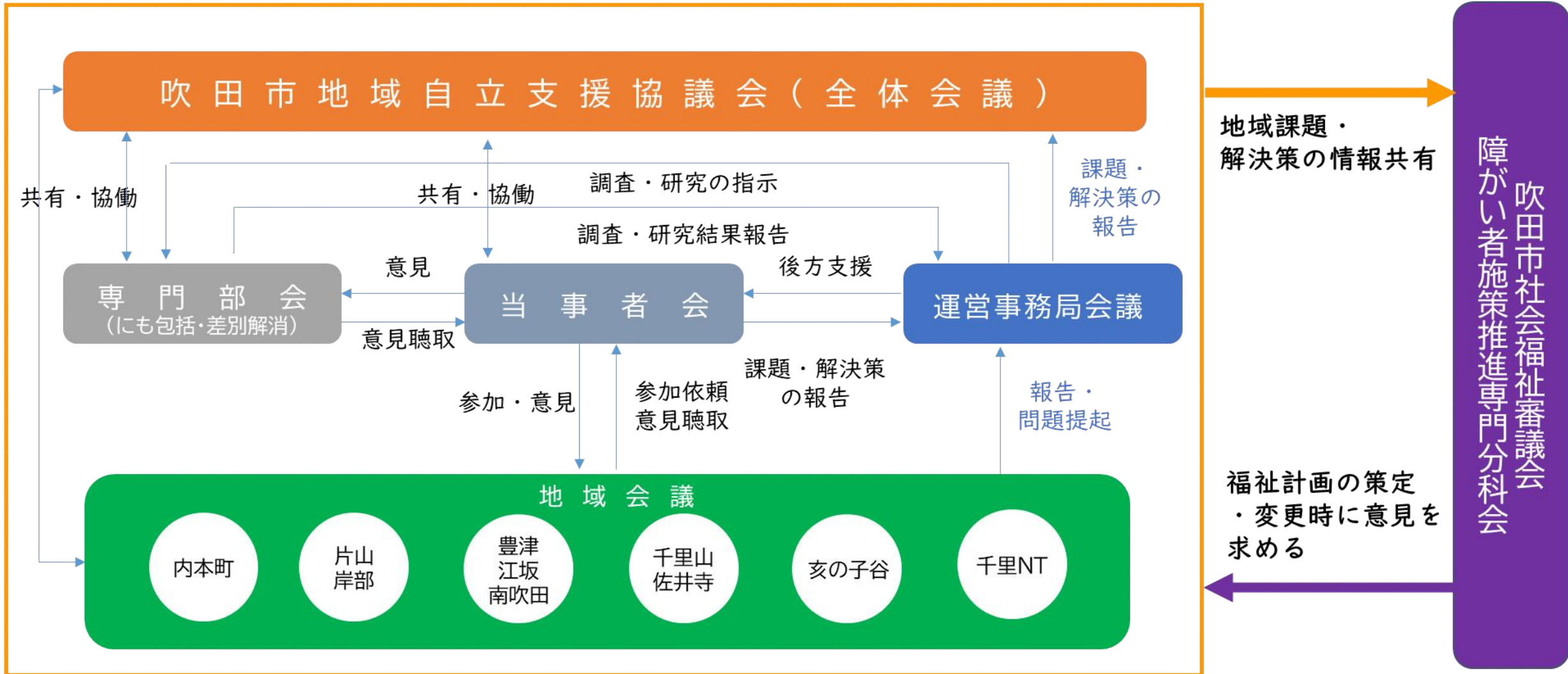
全体会当日写真①





全体会当日写真②

吹田市地域自立支援協議会の概要図



議題

- 1 令和7年度・8年度の地域自立支援協議会
- 2 当事者会からの報告
- 3 障がい者差別解消支援専門部会からの報告
- 4 地域会議からの報告
- 5 相談支援体制について
- 6 資料による報告案件について

※2～4について、各地区ごとに分かれ、グループワークを実施

当事者会 福西会長からの報告

資料2

吹田市地域自立支援協議会 当事者会報告 1. 当事者会の取組状況

日時：2026年3月24日（火） 14時～16時30分
場所：吹田市文化会館（メイシアター） 小ホール
報告者 当事者会
会長 福西 義信
副会長 岩田 美穂
副会長 池田 篤
報告書作成 宮原 秀彦

13名

今年度（2025年度）の委員体制（任期2025.04～2027.03）

2. 防災ハンドブック第2版に向けて

3. 当事者会出前講座

今年度の目標「障がいに関する理解啓発の取組を行うこと」を踏まえて

障がい者差別解消支援専門部会からの報告

令和8年1月29日 第1回吹田市障がい者差別解消支援専門部会を実施

○春貴会長より挨拶 部会の役割と進め方について

○委員

- ・当事者委員を5人から10人へ増員
(肢体・視覚・聴覚・知的・精神)

○内容

- ・弁護士による講演
障害者差別解消法のポイント～合理的配慮を中心に～
義務化されたが、対話が大切
- ・グループワーク (5つのグループに当事者委員2名と委員2～3名)
当事者委員との対話を通じて、差別解消や合理的配慮に対する問題意識等の共有を行い理解を深め合った



わたしたちの地域会議(JR以南)

第1部 講演『地域でつながることの大切さ』
講師 坂根匡宣氏(一般社団法人ダイアログス)

日時：令和7年8月22日
参加者：26名
(当事者、市民、福祉サービス従事者、社協職員、精神科スタッフ、行政職員など)

第2部 体験型ワークショップ「多様な感覚を知ろう」

- ・視覚障がい者体験キットを使用した多様な見え方の体験
- ・アイマスクと白杖を使用し視覚障がい者役と介助者とペアになり歩行体験

「コントラスト低下」体験メガネ



「視野狭窄」体験メガネ



「中心暗転」体験メガネ



地域会議をとおして見えてきたこと
【障がいについての理解不足】

テーマ「母子支援に係る課題の対応」

事例 1 母親の困り事

病気になった時
子どもの受け入れ先

障がい児がいる家庭

総合的な課題

各関係機関との
連携の難しさ

事例 2 母親の困り事

母親自体が親からの愛情不足の為
自分の子どもに愛着が湧かない

- ・ 出産後、産後うつ
- ・ 近隣に頼れる親族がない
- ・ 母親に子育てをする気力がない
- ・ 夫も鬱病、イライラで暴力
- ・ 信頼関係を構築に時間がかかる

テーマ 「意思決定支援について」

内容

- ・ 成年後見制度の今後の動向について
(けんりサポートより講演)
- ・ ご本人らしい意思決定について
(グループワーク)

ご本人の思いに寄り添う
何かを決めなくてもよい
ともに考え、ともに悩み、ともに笑う
悩みながら、意思決定支援をしている

地域の中で当たり前にしていく仕組み

全体会でご検討いただきたい事
ご本人らしい意思決定につなげる
手法として

フローシステムの検討

インクルーシブ防災 どんな風に備える？ 障がい等がある人の防災

災害時の心配ごと
「災害時のトイレ問題」と
「障がい等がある人のコ
ミュニケーション」
について考える

- ①段ボールトイレづくり
- ②障がいのある人のトイレの困りごと
- ③コミュニケーションカードを使った体験

ペアトーク

段ボールトイレを設置し、障がい等がある人と近所の方の設定で、「トイレはどこ？」または「トイレに行きたい」と尋ね、相方の方は案内をしてみましょう。

みんな困るけど…障がい等がある人のトイレの困りごとを聞いてみよう。
一緒に考えてみよう。

ペアトークで 体験して気づいたこと

◆ 視覚障がいの方のトイレへの移動や凝固剤等を使う難しさを知った。手探りでわかる動線の工夫など、他の人も助かることができるように考えたい。

◆ 聴覚障がいの方の体験では、思った以上にコミュニケーションや移動に時間がかかった。トイレに行きたい時は切実な問題だと思った。

◆ 知的障がいの人等は、わかりやすいマークや目印があった方がよいのではないかな。

◆ 何回も体験した方がよいのでは。コミュニケーションボードは避難所にあった方がよい。

水が出ない時、トイレは使えません。
無理に使用すると、流せず、掃除ができず不衛生な環境に悩まされることになります。

災害時の
トイレが心配

グループの人と協力して段ボールトイレを作ってみよう。
段ボール2個でマイトイレ



サクラボックス株式会社「段ボールでまろう」より部分引用

インクルーシブ防災 どんな風に備える？ 障がい等がある人の防災



セイフティーネット
プロジェクト横浜

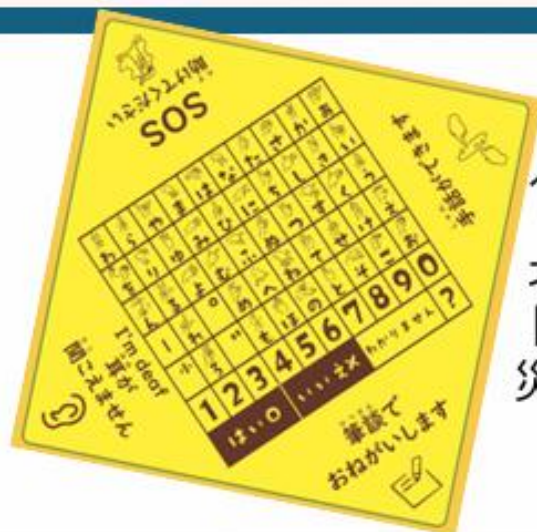
支援が
必要

支援が
できる

横浜市で
「支援が必要」な人は「黄色」、
「支援ができる」人は「緑色」
のものを身につけようとい
うとりくみを進めています

横浜市災害時要援護者支援ガイド・セイフティーネットプロジェクト横浜より部分引用

「コミュニケーションツールを地域の人に知ってもらう」「継続した体験機会をつくる」
災害時に障がい等がある人がひとりぼっちにならないために～アイデアを募集
このまま圏域で考える方がいいのかも悩んでいます



防災バンダナ

北摂三団体・ほくほく共同
開発(聴覚障がい者支援)
災害時の「伝える」「わかる」
をサポートします



大府市の
コミュニケーションボード

障がいのある方、外国の方の避難所でのコミュニケーションを助けます。設置
場所は以下のとおり

災害対策本部・支部(各公民館)
震火災時避難所
震火災避難広場
福祉避難所(市内福祉施設など)

亥の谷地域からの報告

2022年度～2024年度までのテーマ「ネットワークづくり」

★ 2025年度～ テーマをバージョンアップ 「地域とつながる～ネットワークからはじまる変容～」

★2025年度



■ 今年度2回の地域会議を終えて

- ・ 第1回目(8/8)は肢体不自由の障がい当事者から、第2回目(2/6)は聴覚障がいの当事者から実際に話をお伺いしました
- ・ 二部制の開催は地域からも理解を得、第1回目(8/8)は11名、第2回目(2/6)は10名の方々より熱心に参画いただいています

■ 地域でできるファーストステップを模索中

- ・ 当事者の話をお伺いし、「あらためて気づいたこと」を第二部で構成員とともに共有
- ・ 毎回グループワークを実施し、地域でともに暮らす“ささえあいのヒント”や、地域でできるファーストステップについて討議し、シートにまとめています

- TEAM KITAラボをご紹介する時間がないため…
スライド内4枚の写真はR7.12.18に開催したTEAM KITAラボ(参加者52名)のワンシーンです



テーマ「訪問・出張型の身近な相談機能（スペース）を 地域に増設

3. グループワークで出た意見

普段の業務の中で課題と感じていること

- ・卒業後、誰ともつながれていない人がいる
- ・支援を希望しなければ、支援からもれてしまう
- ・家族が抱え込んでいる場合もある
- ・届いてほしい人に情報が届いていない
- ・個人情報への壁が大きく、介入しにくい
- ・1つの事業所だけではイベントの企画や継続が困難
- ・事業所や障がい者相談支援センターの認知度が低い
- ・民生児童委員や福祉委員への周知ができていない

制度・サービス・地域とつながれて
おらず、周囲から孤立している
ケースが多い

グループワークのふり返しから

現状・気づき

- ・合理的配慮の考え方が浸透しきっていない
- ・見えない障がいへの理解が進みにくい

今後に向けて

- ・事例ベースでの普及啓発が必要
- ・分かりやすい表現・伝え方の工夫
- ・研修機会の充実

課題

- ・制度や概念が
分かりにくい
- ・具体的なイメージ
不足

① 共通して見えた課題

- ・つながりが不足している（当事者・家族・地域・支援機関）
- ・さまざまな制度やサービスの周知が不足（制度・相談窓口・取組）
- ・当事者やその家族が、地域の集まりや市の障がい福祉を考える場などに参加する機会が不足

② 背景にある構造

- ・「知られていない」ことで
支援につながらない
- ・「関係がない」ことで孤立が生まれる
- ・「機会がない」ことで参画が進まない

③ 今後の方向性(整理)

- ・情報の見える化
（分かりやすい周知・広報）
- ・つなぐ仕組みづくり
（ネットワーク・場づくり）
- ・参加の促進
（当事者・家族・地域）